

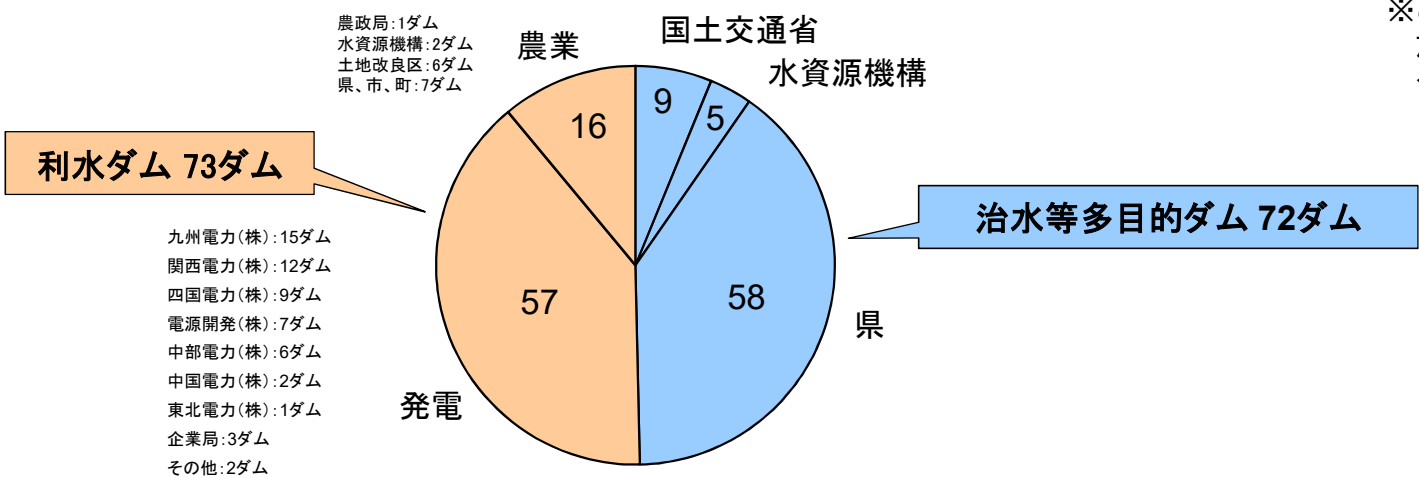
令和5年度出水期における事前放流の実施状況(総括)

- 令和5年度の出水期においては、全国の、のべ181ダムで事前放流を実施したことにより約7.4億m3の容量を確保し、洪水に備えた。(令和5年5月8日～令和5年9月13日)
- そのうち、利水ダムではのべ94ダムで事前放流を実施したことにより約5.4億m3の容量を確保。

＜令和5年度出水期に事前放流を実施したダム数と確保容量の内訳＞ 11月29日時点

名称	区分	令和5年度の主な降雨						合計 (ダム数の括弧書きは重複除きの数)
		5月8日からの大雨	台風第2号 (5月29日～)	6月29日からの大雨	台風第6号 (8月1日～)	台風第7号 (8月14日～)	台風第13号 (9月4日～)	
治水等多目的ダム	ダム数	2	29	12	16	28	0	87(72)
	確保容量(万m ³)	300	6,000	2,000	5,100	6,600	0	20,000【2.0億m ³ 】
利水ダム	ダム数	7	26	12	32	10	7	94(73)
	確保容量(万m ³)	2,000	9,500	3,100	12,800	21,400	5,300	54,100【5.4億m ³ 】
合計	ダム数	9	55	24	48	38	7	181(145)
	確保容量(万m ³)	2,300	15,500	5,100	17,900	28,000	5,300	74,100【7.4億m ³ 】

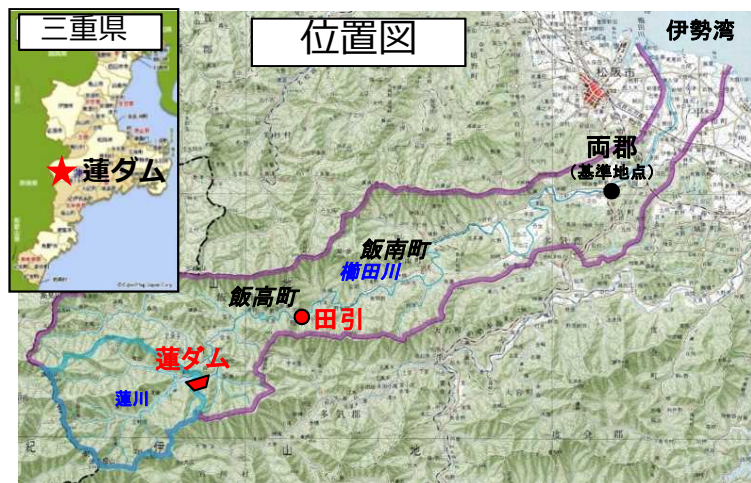
＜令和5年度出水期に事前放流を実施した145ダム（重複除き）の管理者＞



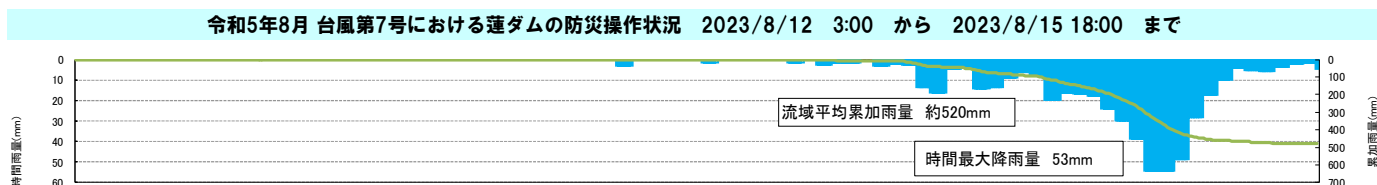
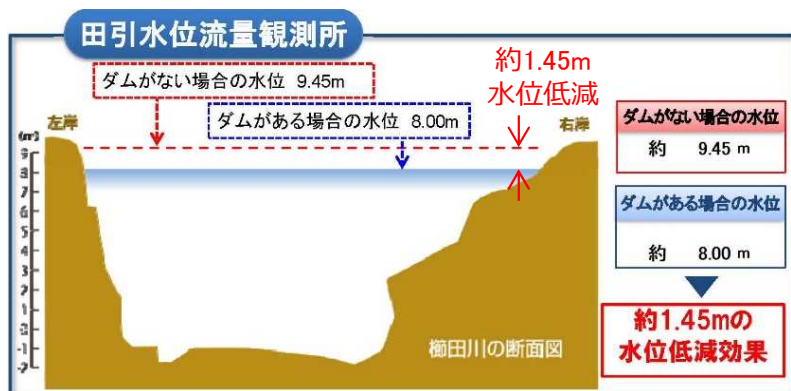
※この他、上記の主な降雨に関連し「すでに事前放流の容量を確保していたダム」が全国で、のべ225ダムで容量を確保(約12.4億m³)

櫛田川水系蓮ダムでの事前放流及び洪水調節による治水効果（令和5年8月 台風第7号）

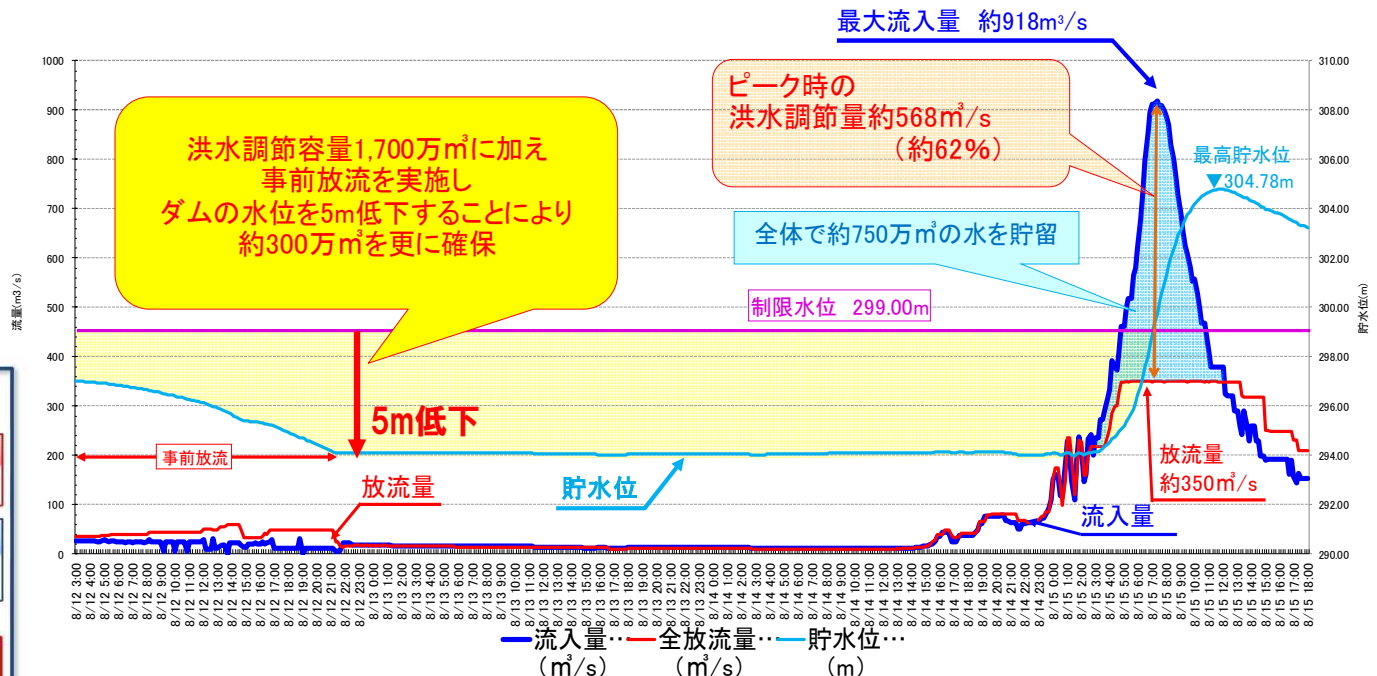
- 蓮ダム流域では、台風第7号による大雨の影響により、流域平均累加雨量は約520mmを記録し例年8月の総雨量の130%に相当する降雨を観測した。
- 洪水調節容量1,700万 m^3 に加え事前放流を実施し、ダムの水位を5m低下させ更に約300万 m^3 を確保した。
- 蓮ダムでは最大流入量約918 m^3/s を観測したが、洪水調節を実施しダムに洪水を貯留したことから、下流へ流れる洪水の量を最大で約568 m^3/s 抑え、約350 m^3/s に低減した。
- 今回の洪水調節により櫛田川の水位は、田引地点(河口から58.0km)で約1.45m低下したものと推定される。



田引水位観測所地点の水位低減効果

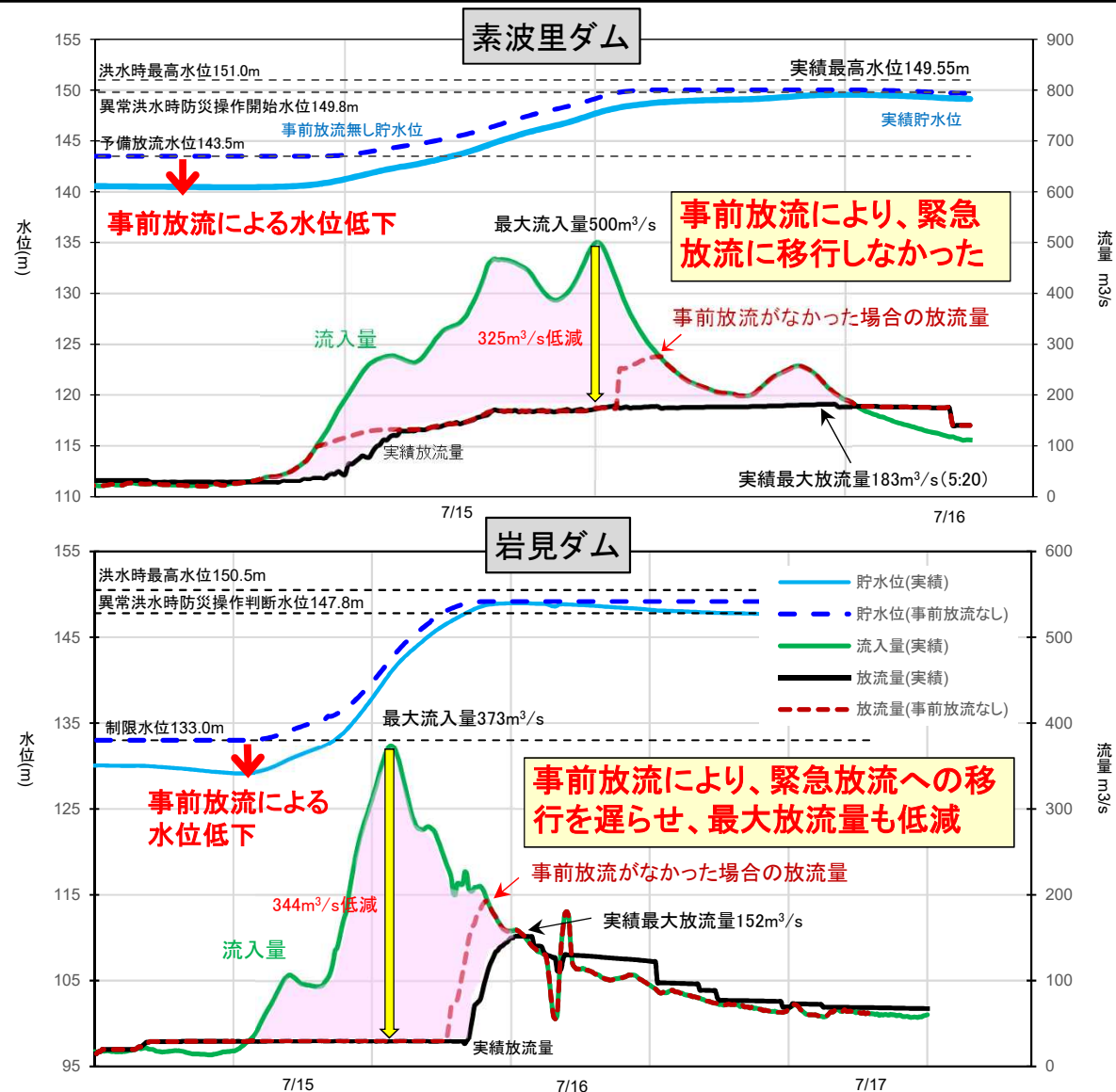


(注)この数値は速報として取り急ぎまとめたもので、後日一部訂正や追加をすることがあります。

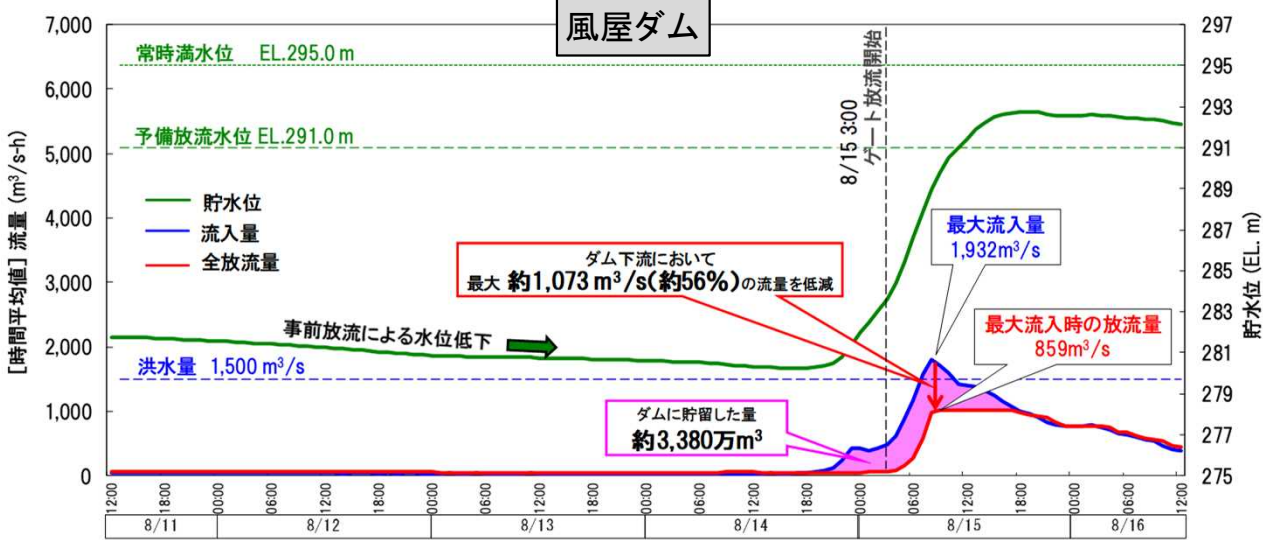
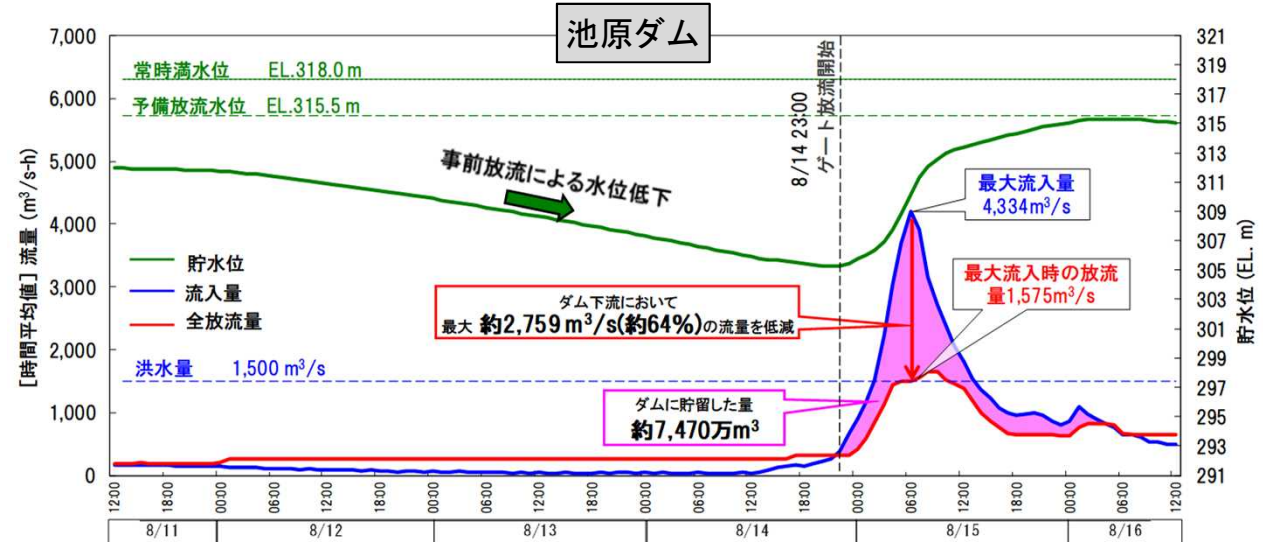
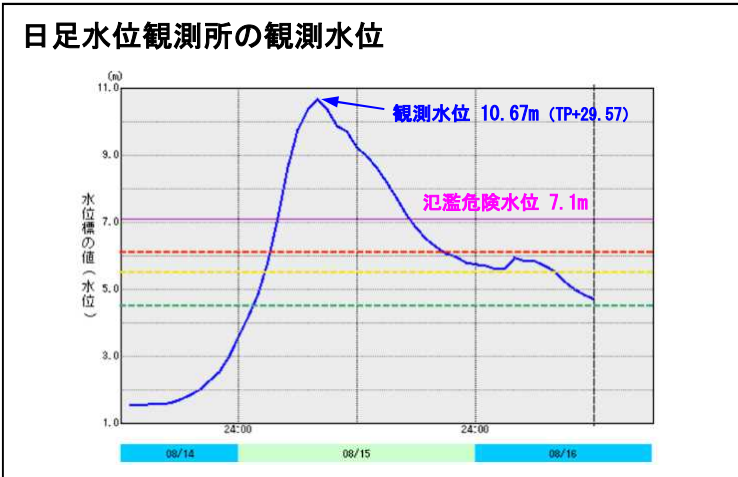


※本資料は速報値であるため、今後の調査により数値等が変わることがあります。

- 米代川水系粕毛川の素波里ダムでは、通常の洪水調節容量1,000万 m^3 に加え、事前放流により約380万 m^3 の容量を追加確保していたため、洪水調節容量を使い切ること無く、緊急放流に移行せずに洪水調節を行った。
- 雄物川水系三内川の岩見ダムでは、通常の洪水調節容量920万 m^3 に加え、事前放流により約170万 m^3 の容量を追加確保し、洪水調節を行った。大雨により緊急放流に移行したものの、下流の被害を軽減した。



- 池原ダム、風屋ダムは、洪水調節機能を有していない利水ダムではあるが、台風7号において治水協定により台風による大規模な出水が想定されたことから、ダム下流河川沿川の洪水被害軽減を図るダム運用（事前放流等による貯水位を事前に低下させ空き容量を確保し、洪水時にダム放流量を低減）を実施した。
- 新宮川水系熊野川では、台風7号において、これまでの河道整備と利水ダムの事前放流等の運用により、日足地区の日足観測所で河川水位を3.1m低減し、氾濫危険水位7.1mを超過したものの水位上昇を10.67mに留め、家屋浸水を回避した。



※数値等は速報値ですので、今後の精査等により変更する場合があります。